

2026 年度一般社団法人東金青年会議所

理事長所信

鳥海 翔平

はじめに

2025 年、日本は「2025 年問題」と呼ばれる大きな転換点を迎えました。団塊の世代が 75 歳以上となり、医療や介護の需要が急増する一方で、生産年齢人口は減少の一途をたどっています。

私たち東金青年会議所が活動する山武郡市エリアにおいても、少子高齢化の波は深刻であり、「人口戦略会議」では東金市と大網白里市を除く「山武市」「九十九里町」「横芝光町」「芝山町」の 4 市町が、いわゆる“消滅可能性自治体”に分類されました。このような状況下で地域社会の持続可能性を確保するためには、今後の地域を担う若い世代の力が不可欠です。

青年会議所は、単なるボランティア団体ではなく、「リーダーシップの開発と成長の機会を提供する」団体です。未来を担う若者たちが革新的な視点と行動力を身につけ、地域や社会の課題に主体的に関与していくことが求められています。

私は、さまざまな活動を通じてリーダーシップや課題解決力を培い、その中で育まれた熱意や行動力が地域へと波及し、周囲の人々を巻き込みながらより良いまちづくりにつながっていくと信じています。

つまり、青年会議所の活動は、個の成長を通じて地域全体の活性化へとつながる“人財”を育む営みであり、その連鎖こそが持続可能な地域貢献のかたちなのです。

組織エンゲージメントの向上

青年会議所は、仕事や家庭以外の貴重な時間を使って活動する、多様なバックグラウンドを持つメンバーが集う組織です。ゆえに、従来の慣習や形式にとらわれない柔軟な組織運営、そして多様性を尊重する姿勢が求められます。

私たちは、メンバー一人ひとりの価値観や働き方を尊重し、それぞれの能力を最大限に引き出す組織運営を目指します。そのためには、新しい取り組みを積極的に導入し、変化を恐れず挑戦し続けることが重要です。

また、東金青年会議所は入会 3 年未満のメンバーが半数以上を占めており、理事経験がないメンバーもほとんどの状態です。経験が浅いメンバーが JC の意義や目的を理解し、メンバーが自己成長を実感し、当事者意識を持てるような機会を提供し、誰もが「ここに居続けたい」と感じられる魅力的な組織づくりに取り組んでまいります。

会員拡大とブランド戦略

会員拡大は、単に会員数を増やすことが目的ではなく、青年会議所の持続的な発展と、地域社会へのさらなる貢献を実現するための重要な手段です。新たなメンバーの参画は、組織に新しい視点とスキルをもたらし、活動基盤となる財源の安定にも寄与します。結果として、私たちが取り組むべき地域課題に対し、より広く、より深く対応していくことが可能となります。

そのためには、地域の皆様に対して、私たちが「魅力ある組織」「魅力ある人財」「魅力ある活動」を有する団体であることを、しっかりと伝えていく必要があります。

55年の歴史を歩んできた東金青年会議所は、これまで数多くの地域貢献を果たし、志ある人財を輩出してまいりました。これらの実績こそが、私たちの誇りであり、今後の活動における大きな武器となります。これを活かし今後は、広報活動の強化により認知度を高め、他団体や企業との連携を通じて、地域課題に共に取り組む体制を築いていきます。

また、入会対象者だけでなく、地域の幅広い世代が参加できる魅力的な例会を実施することで、地域から必要とされる存在となり、自然と人が集まる組織を目指します。

共に未来を描く仲間を増やし続けること。それが、私たちの目指す会員拡大です。

自己実現が果たせるまちづくり

地方から都市部へ若者が流出する背景には、自己実現や夢の追求といった内面的な動機が大きく影響しています。都市部には教育、キャリア、ライフスタイルにおける多様な選択肢があり、異なる価値観に触れる機会も豊富です。そうした環境の中で、若者は新たな視野を広げ、成長の手応えを得ています。

しかし、都市部でしか実現できないと思われがちな自己実現の機会も、地方の特性や資源を活かすことで十分に創出可能です。むしろ、地方だからこそできる独自性のある取り組みを展開できる可能性があります。

来年は、都市部に負けない魅力的な挑戦の場を地方につくり出し、若者が地元で夢を描き、実現できる環境づくりを目指します。それにより地域への愛着や誇りが生まれ、地域の活性化や次世代の人材育成にもつながっていくと考えています。

また、来年度は東金青年会議所活動エリア2市にて首長選挙が実施されます。住民一人ひとりが、自らの生き方や価値観を地域社会に反映できるまちづくりを進めるためには、「誰かがやってくれる」のではなく、「自分たちが動く」という意識の転換が不可欠です。自分たちのまちは自分たちでつくるという感覚を広げ、個人の自己実現と地域の持続的な発展が共に育まれる地域社会の実現を目指していきます。

こどもまんなかの地域づくり

私たちの地域の未来は、子どもたちとその子育て家庭によって形作られます。しかし、現代の社会では、子どもたちがのびのびと成長し、家庭が安心して子育てに向き合える環境は決して十分とは言えません。だからこそ、私たちは子どもと家庭の双方を中心に据えた地域づくりを考える必要があります。

私は、子どもたちが安全に思い切り楽しめることはもちろん、子育て家庭の大人も一緒に喜びや達成感を感じられるような場を提供したいと考えています。遊びや体験を通して、子どもと大人が同じ時間を共有し、笑顔で交流する瞬間こそ、家庭や地域の豊かさを生み出すと信じています。

青年会議所は、地域の課題に向き合い、解決の力を生み出す組織です。子どもを中心に据えつつ、家庭全体が参加できる事業を通じて、地域に活力と喜びを届けたい。子どもたちは成長の喜びを感じ、大人たちは子どもたちの可能性を共に喜ぶことで、家庭の時間がより豊かになり、地域全体の未来に希望の連鎖を生み出すことができます。

私は、子どもと家庭が共に楽しめる事業を展開することで、地域の子どもたちの笑顔と、子育て家庭の安心や喜びを同時に生み出していきたいと考えています。家庭と地域がともに育まれる「こどもまんなかの地域

づくり」を通じて、未来に向けた確かな希望を地域にもたすこと。それが私たち青年会議所の目指す姿です。

世界を知ること自分を知る

2024年度に台湾・桃園で開催された JCI 世界会議を契機に、姉妹 JC である台湾・員林青年会議所との交流が再開されました。青年会議所では、国際的な視野を持つリーダーの育成を目的に、さまざまな国際交流の機会が設けられています。

しかし、国外での交流には、時間的・金銭的な制約から参加が難しいという課題もあります。そんな中、2026年度にはアジア太平洋地域最大級の国際会議「ASPAC（アジア太平洋会議）」が、新潟県で開催されることが決定しました。

この会議では、21か国から約1万人の青年会議所メンバーが参加し、地域課題の解決や持続可能な社会の実現に向けた議論が交わされます。異文化との交流を通じて、参加者は多様な価値観に触れ、自身の視野を広げる貴重な機会となるでしょう。

日本国内での ASPAC 開催は4~5年に一度の貴重なチャンスです。私たちはこの機会を最大限に活かし、東金青年会議所のメンバーが積極的に国際交流に参加し、新たな発見や自己成長につなげてまいります。

終わりに

皆さんは、「チャンスの神様には前髪しかない」という言葉をご存知でしょうか。これは、古代ギリシャ神話の「カイロス」という神に由来します。カイロスは、前髪は長く、後頭部は禿げた姿で描かれます。つまり、「チャンスは目の前に来た瞬間に掴まなければ、通り過ぎた後では掴めない」という教訓を象徴しています。人生において、チャンスはいつも明確な形で訪れるとは限りません。曖昧で不確実に見えることも多く、多くの人が躊躇してしまいます。けれども、ほんのわずかな人が「これは何かのきっかけかもしれない」と可能性を感じ、手を伸ばします。そして、ごく少数の人だけが、そのチャンスを最後まで掴み続けます。私は、才能とは生まれつきの資質ではなく、チャンスの神様の前髪を掴んで離さない「握力」だと考えます。青年会議所での活動は、その握力を鍛える絶好の機会です。私たち東金青年会議所のメンバー一同が、迷いながらも一歩を踏み出す力を持ち、困難の中でも最初の意志を手放さずに歩み続けることで、未来を切り拓く力となっていきます。挑戦し続け、成長を続けることで、才能あふれる青年を目指して、共に歩み出しましょう。